

○東京の緑を守ろうプロジェクトについて

東京においては、都市公園などの新たな緑が創出される一方、都市の中に残された樹林地や農地等の既存の緑は、これを上回って減少している。

東京都は、こうした状況を自治体共通の重要な課題ととらえ、「10年後の東京」への実行プログラムに基づき、特に減少傾向にある民有地の既存の緑を計画的に確保することを目的として、平成22年5月、区市町村（島しょ部を除く）と合同で「緑確保の総合的な方針」を策定した。

この方針では、10年間の計画期間における、確保することが望ましい既存の緑の箇所及び面積、緑の創出を伴うまちづくり事業をリスト化し、図面として公表するとともに、新たに取り組む施策として、崖線の緑の保全、東京ラインガルテン（都市型農園）事業等を提示した。「東京の緑を守ろうプロジェクト」は、この方針における既存の緑を守る取組「民間基金との連携による緑地保全」として位置付けられる。

平成22年2月、東京都とセブン-イレブンみどりの基金（現セブン-イレブン記念財団）は、「東京の緑を守ろうプロジェクトに関する協定」を締結し、東京全体の緑の保全を支援する新たな民間団体の創設と活動に関する助成（東京の緑を守る将来会議に関する事）及び、地域の緑の保全活動を行う団体への助成（「東京の緑を守ろうプロジェクト助成」に関する事）を開始した。本年は3年目の取組である。

